

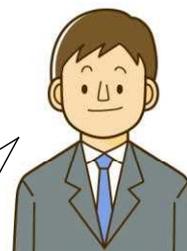
# 「特別の教科 道徳」の実施に向けて〈その6〉

## ～ 道徳科の指導 ～



道徳科では、どのように授業を進めていけばよいのですか？

指導を行うに当たっては、道徳科の特質をしっかりと理解する必要があります。  
道徳科の目標を基に、道徳科の役割や指導のポイントなどを確認していきましょう。



### 道徳科の目標（「第3章 特別の教科 道徳」の「第1 目標」）

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

※（ ）は中学校

### 道徳科の役割 ～学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要として～

道徳科は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同様に、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目指しています。

その中で、道徳科は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割があり、各教科等における道徳教育としては取り扱う機会が十分でない道徳的価値に関わる指導を補うことや、児童・生徒や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること、相互の関連を考えて発展させたり統合させたりすることに留意して指導することが求められます。

### 道徳科における学習

#### 1 道徳的諸価値について理解する

児童・生徒が将来、様々な問題場面に出会った際、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うためには、道徳的価値の意義及びその大切さを理解することが必要です。

道徳的価値を理解させるに当たっては、次の3つの理解を深めながら進めることが大切です。

- **価値理解** 内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解する。
- **人間理解** 道徳的価値は大切であっても、なかなか実現することができない人間の弱さなども理解する。
- **他者理解** 道徳的価値を実現したり、できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではなく多様である。

## 2 自己を見つめる

自己を見つめるとは、道徳的価値をこれまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、更に考えを深めることです。これにより、道徳的価値の理解と同時に自己理解を深めることになります。

指導に当たっては、道徳的価値を基に自己を見つめることができるような学習を通して、道徳性を養う意義について、児童・生徒自らが考え、理解できるようにすることが大切です。

## 3 物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える ※（ ）は中学校

道徳性を養うためには、児童・生徒が多様な考え方や感じ方に接することが大切であり、児童・生徒が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることが求められます。

指導に当たっては、物事を一面的に捉えるのではなく、児童・生徒自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすることが大切です。

## 4 自己（人間として）の生き方についての考えを深める ※（ ）は中学校

児童・生徒は、前述したような学習過程で、同時に自己（中学校では人間）の生き方についての考えを深めています。指導に当たっては、特にそのことを強く意識して指導することが重要です。

例えば、「児童・生徒が道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるようにする」、「これからの生き方の課題を考え、それを実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにする」などが必要とされます。

## 発問の工夫

上記のような道徳科の特質を生かした学習指導を進めるに当たっては、発問の工夫が望まれます。

児童・生徒の問題意識や疑問を引き出す発問、考える必然性や切実感のある発問、物事を多面的・多角的に考えさせる発問などを心掛けることが大切です。



### <発問の工夫例>

- 「～のどんなことが問題なのか。」「なぜできないのか。」「どうしたら解決できるのか。」  
(問題意識を引き出し、考えさせる発問)
- 「自分ならどうするか。」「～という考えもあるがどうか。」  
(多面的・多角的に考えさせる発問)
- 「～（本時で扱う道徳的価値）についてどう考えるか。」「これからの生活に生かせることはどんなことか。」  
(これからの生き方を考えさせる発問)

道徳科の指導においては、その目標を十分に理解し、上記の点に留意しながら、児童・生徒の実態に応じた指導の工夫を行うことが大切です。

道徳性は、徐々に、しかも着実に養われることにより、潜在的、持続的な作用を行為や人格に及ぼします。よって、長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導を心がけてください。